

ゆっくりも いいもんよ



関西を生息地とするクチベニマイマイ  
大阪府箕面山中にて

とかく昔から敬遠されがちな“梅雨”が今年もやってきた。六甲おろしの吹きすさぶ真冬が終わり、穏やかな春の季節と、熱帯夜のつづく真夏の狭間にあって、高温多湿なこの期間を“我がときなり”と謳歌するカタツムリの姿からは、暑苦しいじめじめ感はない。ゆっくりと移動することしかできないところから、固有種の生息範囲もそう広くはないらしく、大阪箕面の山中で出会ったこのクチベニマイマイは、近畿圏を生息地としているカタツムリ。

殻の口辺りが赤く紅をさしたようなところからこの名がついたらしい。

カメラのレンズ越しに眺めながら、亀とカタツムリが競争したらどうなる？ふと「兎と亀」のおとぎ話を思い出しながら、分刻みで

慌ただしく生活する我々を、同じ地球上にすむ生き物として、彼らは我々をどのように観察していることだろう。

「ゆっくりも いいもんよ」と、声なき声が聞こえてくるようにも感じる。

今年は、本州全土が6月8、9日のほぼ同時に梅雨入り宣言が出た。昨年より約2週間も遅いけれど、これで平年並らしい。昨年のあの異常な暑さを思い出せば、どうかせめて平年並の夏であって欲しいと願うばかりだ。出番を待つクーラーの点検をしながら、「カタツムリ時計」の持ち主に、「いいこと気づかせてくれたね。いつまでも元気でおりや」と同じ地球の仲間にエールを送る。

(ひしのみ 126号 写真と文 菅田 忠志)